

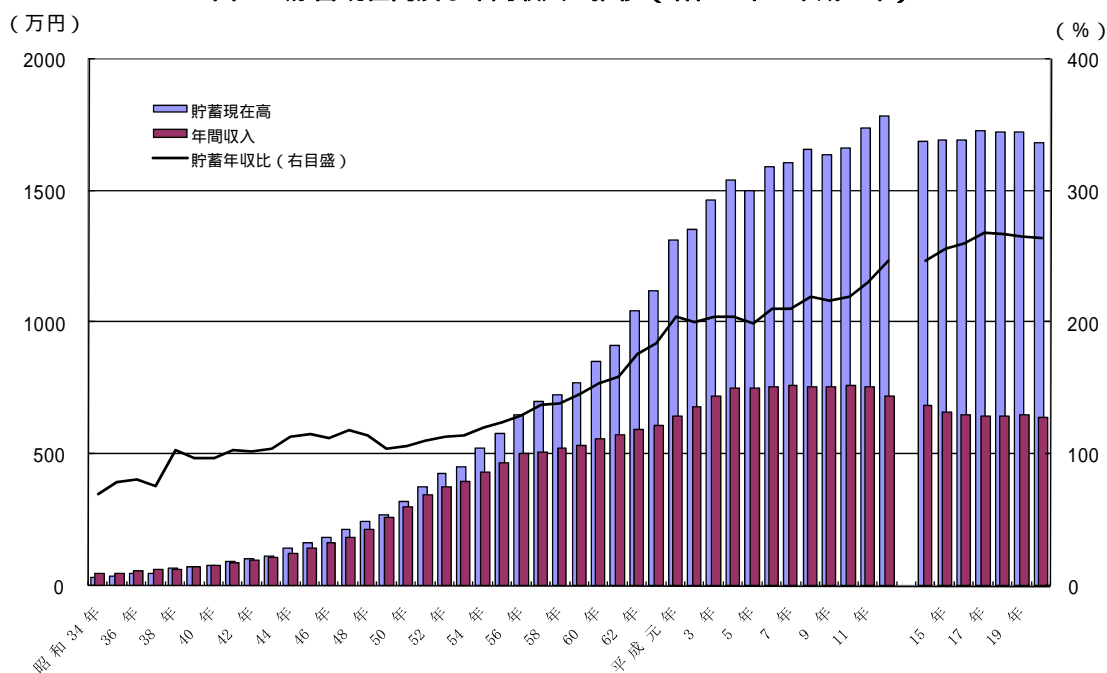
参 考 資 料

1 二人以上の世帯の貯蓄の推移

(1) 貯蓄現在高の年間収入に対する比は半世紀の間に約3.8倍に拡大

二人以上の世帯について1世帯当たり貯蓄現在高の推移をみると、平成18年以降3年連続で減少しているものの、20年（1680万円）の水準は約半世紀前の昭和34年（30万円）の56倍となっている。また、貯蓄現在高の年間収入に対する比（貯蓄年収比）の推移をみると、貯蓄現在高と同様に平成18年以降3年連続で低下しているものの、20年（263.7%）の水準は昭和34年（70.0%）の約3.8倍となっている（図1）。

図1 貯蓄現在高及び年間収入の推移（昭和34年～平成20年）



	昭和34年	35年	36年	37年	38年	39年	40年	41年	42年	43年	44年	45年	46年	47年	48年	49年	50年
貯蓄現在高(万円)	30	36	46	44	65	69	76	91	99	113	139	160	183	215	243	270	317
年間収入(万円)	43	45	57	58	63	71	78	88	98	108	123	139	162	182	212	260	299
貯蓄年収比(%)	70.0	79.2	80.7	75.6	103.3	97.6	97.4	103.2	101.9	104.5	112.9	115.0	112.8	118.4	114.2	104.1	106.0
	昭和51年	52年	53年	54年	55年	56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年	平成元年	2年	3年	4年
貯蓄現在高(万円)	377	427	451	521	579	650	697	726	770	853	910	1045	1120	1311	1353	1465	1537
年間収入(万円)	343	377	393	431	464	502	505	524	530	556	571	592	608	641	677	719	751
貯蓄年収比(%)	109.9	113.3	114.7	120.8	124.8	129.6	138.0	138.7	145.3	153.5	159.3	176.5	184.3	204.4	199.8	203.8	204.8
	平成5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年		
貯蓄現在高(万円)	1498	1592	1604	1655	1635	1661	1738	1781	1688	1690	1692	1728	1722	1719	1680		
年間収入(万円)	751	755	762	755	755	758	755	721	683	660	650	645	645	649	637		
貯蓄年収比(%)	199.5	210.8	210.5	219.4	216.5	219.0	230.2	246.9	247.1	256.1	260.3	267.9	267.0	264.9	263.7		

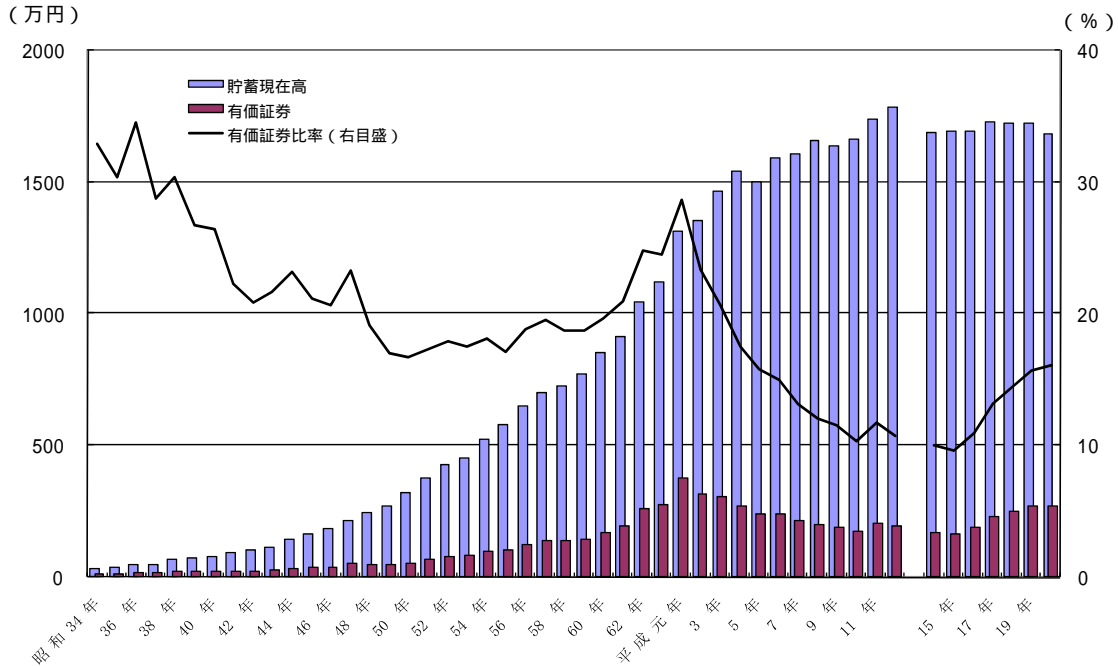
注) 平成12年以前は、「貯蓄動向調査」結果による。

貯蓄動向調査：家計調査の附帯調査として平成12年まで毎年12月31日現在で実施。
家計調査とは、調査時期、調査対象世帯数等が異なる。
貯蓄・負債編としての調査は、1年の準備期間の後、平成14年から実施。

(2) 有価証券の保有現在高はバブル期に次ぐ水準に

貯蓄のうち有価証券について1世帯当たり保有現在高の推移をみると、昭和34年以降徐々に増加し、いわゆるバブル期の平成元年が375万円と最も多く、2年以降は徐々に減少する傾向であったが、いわゆるITバブル期と重なる11年に一時的に増加した。その後再び減少に転じた後、平成16年以降は5年連続で増加し、現在はバブル期に次ぐ水準となっている。貯蓄現在高に占める有価証券の割合(有価証券比率)も平成16年以降再び上昇を続けている(図2)。

図2 貯蓄現在高及び有価証券の保有現在高の推移(昭和34年～平成20年)



	昭和34年	35年	36年	37年	38年	39年	40年	41年	42年	43年	44年	45年	46年	47年	48年	49年	50年
有価証券(万円)	10	11	16	13	20	18	20	20	21	24	32	34	38	50	46	46	53
貯蓄現在高(万円)	30	36	46	44	65	69	76	91	99	113	139	160	183	215	243	270	317
有価証券比率(%)	32.9	30.4	34.5	28.8	30.3	26.7	26.5	22.2	20.8	21.6	23.2	21.1	20.6	23.3	19.1	17.0	16.7
	昭和51年	52年	53年	54年	55年	56年	57年	58年	59年	60年	61年	62年	63年	平成元年	2年	3年	4年
有価証券(万円)	65	77	79	95	99	122	136	136	144	167	190	259	274	375	316	303	270
貯蓄現在高(万円)	377	427	451	521	579	650	697	726	770	853	910	1045	1120	1311	1353	1465	1537
有価証券比率(%)	17.3	17.9	17.5	18.1	17.1	18.8	19.5	18.7	18.7	19.6	20.9	24.8	24.5	28.6	23.3	20.7	17.5
	平成5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年		
有価証券(万円)	237	238	211	199	188	172	203	190	168	162	185	227	248	269	270		
貯蓄現在高(万円)	1498	1592	1604	1655	1635	1661	1738	1781	1688	1690	1692	1728	1722	1719	1680		
有価証券比率(%)	15.8	14.9	13.1	12.0	11.5	10.3	11.7	10.7	10.0	9.6	10.9	13.1	14.4	15.6	16.1		

注)平成12年以前は、「貯蓄動向調査」結果による。

貯蓄動向調査：家計調査の附帯調査として平成12年まで毎年12月31日現在で実施。
 家計調査とは、調査時期、調査対象世帯数等が異なる。
 貯蓄・負債編としての調査は、1年の準備期間の後、平成14年から実施。

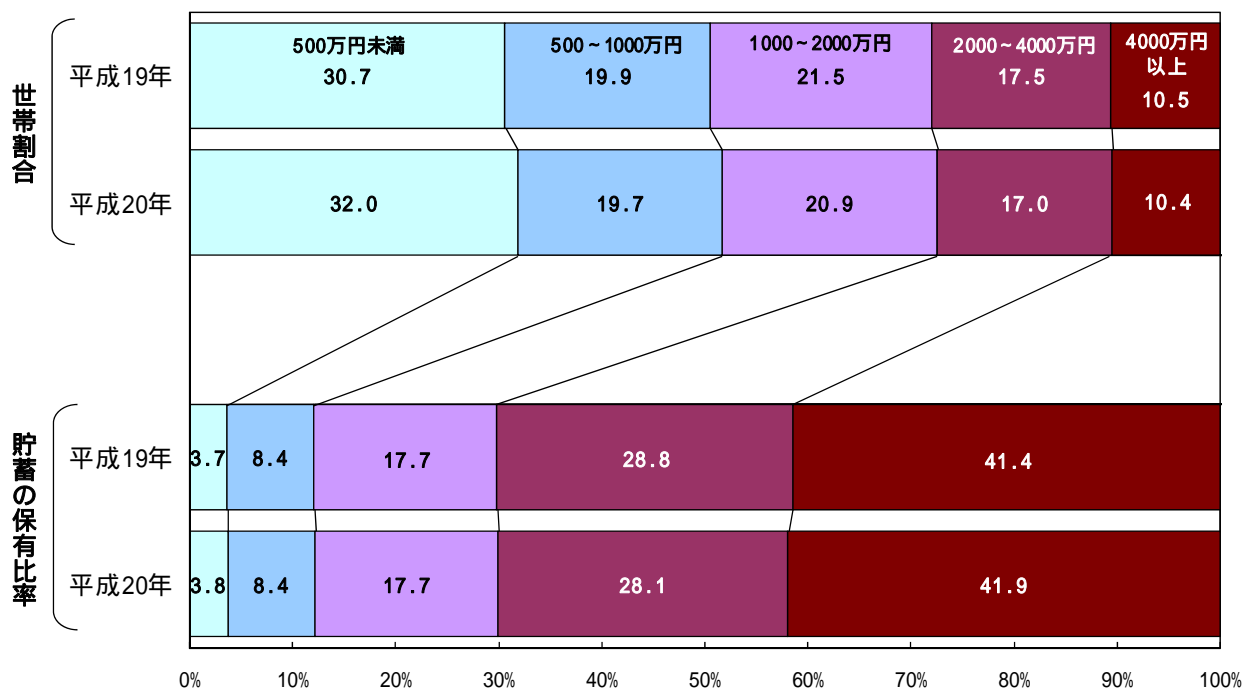
2 二人以上の世帯の貯蓄の分布状況

(1) 4000万円以上の貯蓄を保有する世帯は全体の約1割で貯蓄全体の約4割を占める

二人以上の世帯について、貯蓄現在高階級別に世帯割合をみると、平成20年は、500万円未満の世帯が最も多く全体の32.0%となっており、これらの世帯の貯蓄の保有比率は全体の3.8%となっている。また、4000万円以上を保有する世帯は全体の10.4%で貯蓄全体の41.9%を占めている。

平成19年と比べると、貯蓄現在高が500万円未満の世帯は、世帯割合が1.3ポイント拡大し、貯蓄の保有比率は0.1ポイント拡大している。また、貯蓄現在高が4000万円以上の世帯は、世帯割合が0.1ポイント縮小し、貯蓄の保有比率は0.5ポイント拡大している(図3)。

図3 貯蓄現在高階級別貯蓄の分布状況(平成19年, 20年)



(2) 60歳以上の世帯は全体の約 4 割で貯蓄全体の約 6 割を占める

二人以上の世帯について、世帯主の年齢階級別に世帯割合をみると、平成20年は、60歳以上の世帯が最も多く全体の42.7%となっており、これらの世帯の貯蓄の保有比率は全体の59.7%となっている。

平成19年と比べると、世帯主の年齢が60歳以上の世帯は、世帯割合が0.5ポイント拡大し、貯蓄の保有比率は0.5ポイント縮小している（図4）。

図4 世帯主の年齢階級別貯蓄の分布状況（平成19年，20年）

